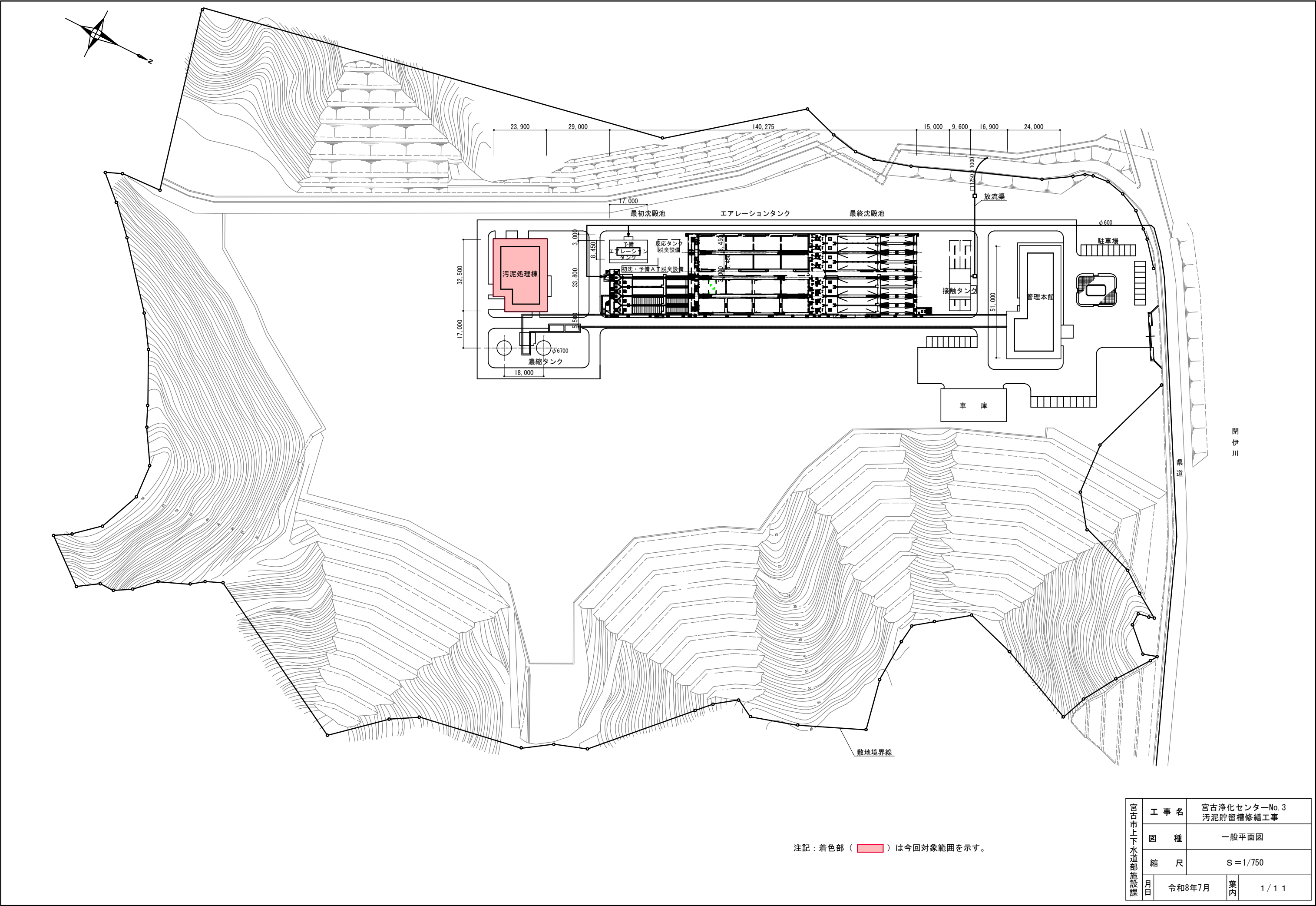
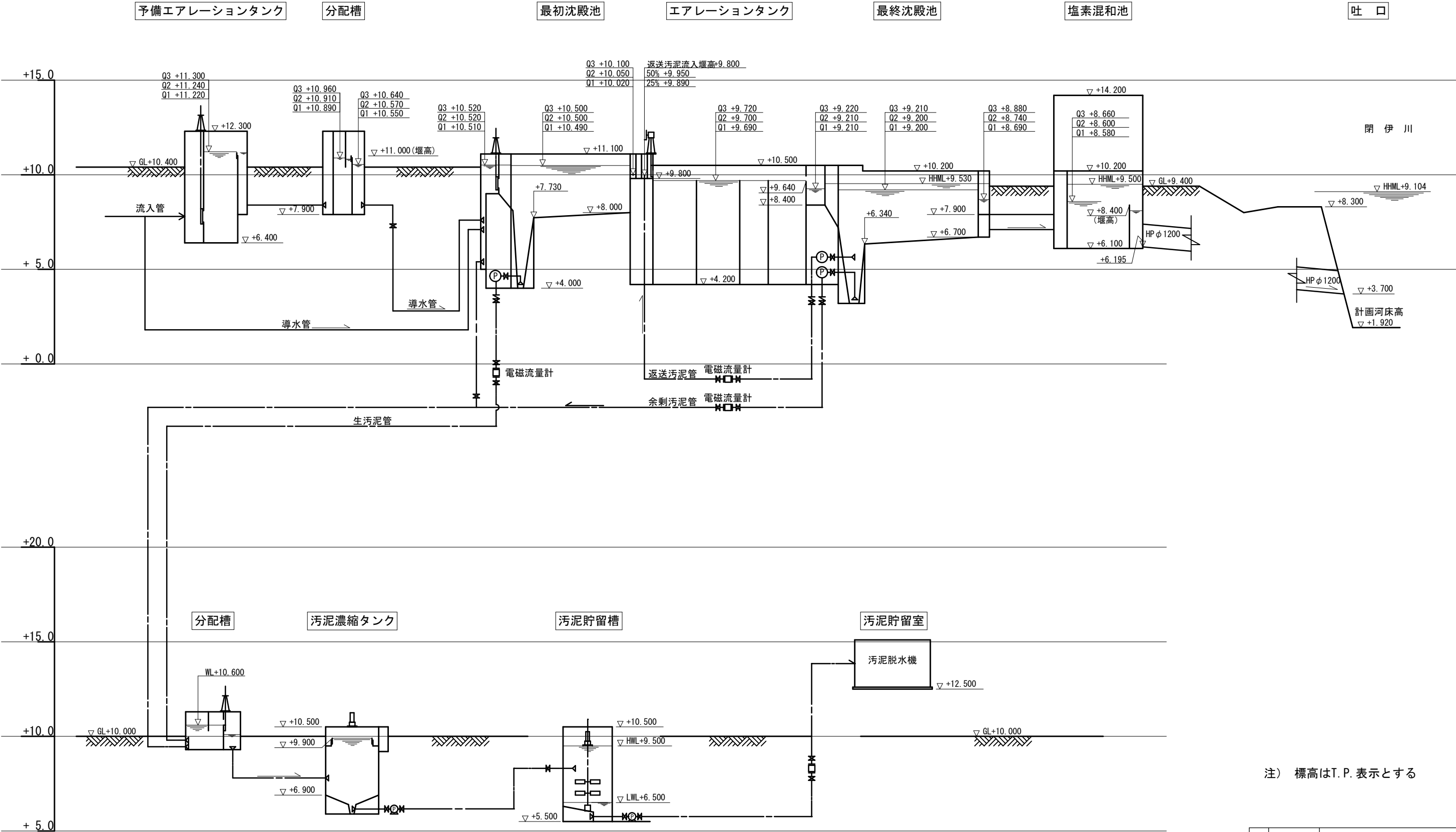




注記：着色部（）は今回対象範囲を示す。

宮古市上下水道部施設課	工 事 名	宮古浄化センターNo. 3 汚泥貯留槽修繕工事		
	図 種	一般平面図		
	縮 尺	S=1/750		
	月 日	令和8年7月	葉 内	1 / 1 1

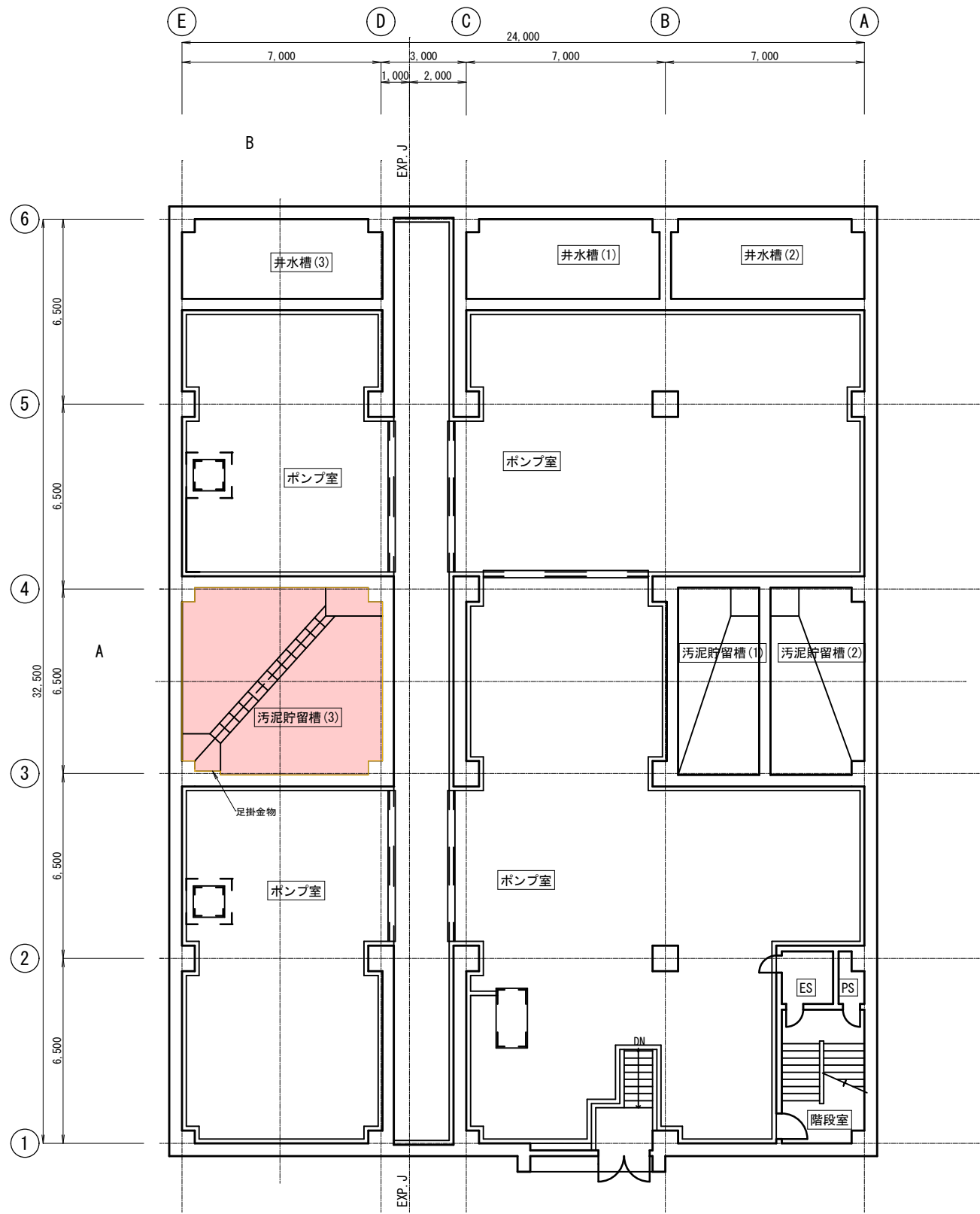
水位関係図 V=1/100
H= NON



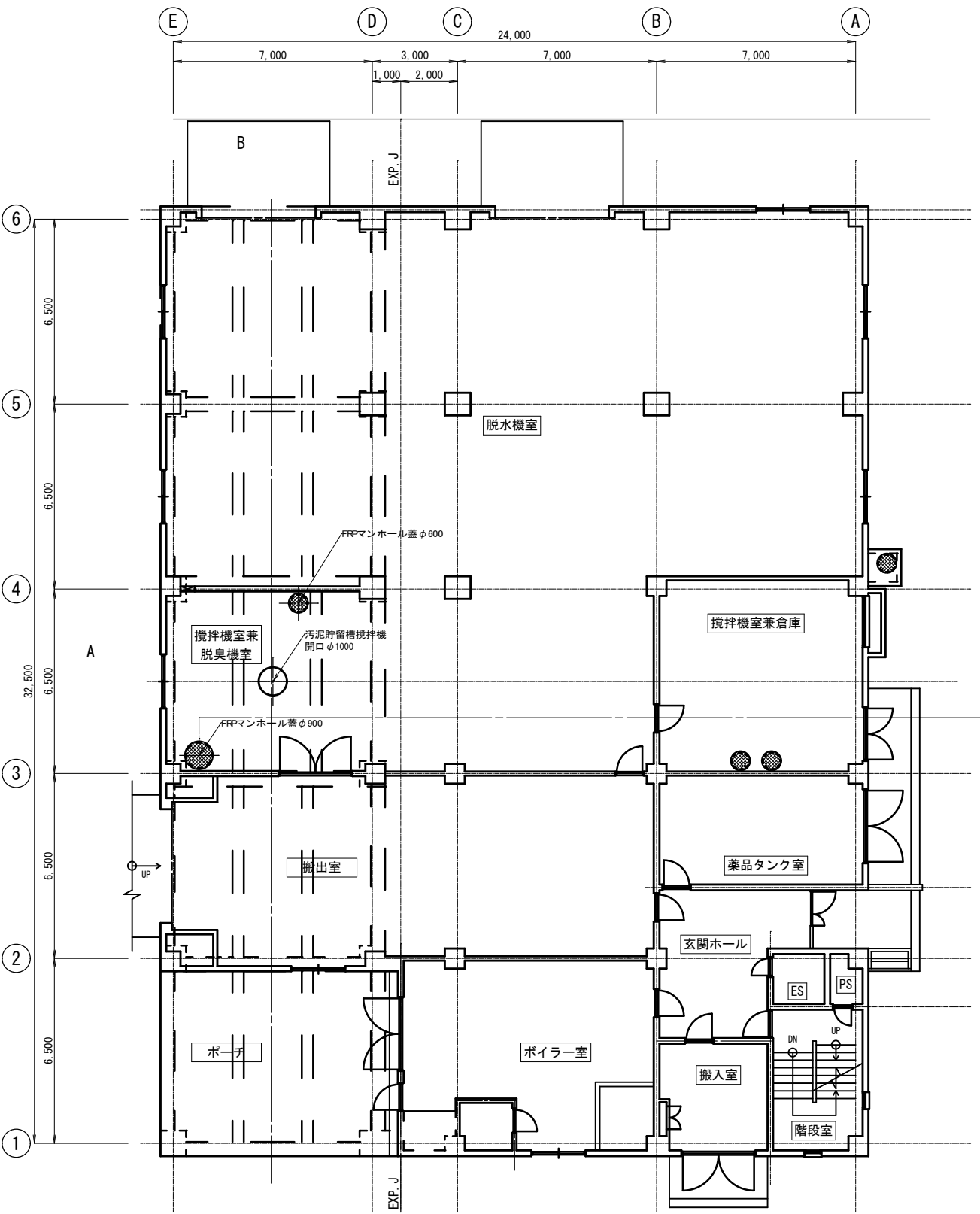
注) 標高はT.P.表示とする

宮古市上下水道部施設課	工 事 名	宮古浄化センターNo.3 汚泥貯留槽修繕工事		
	図 種	水位関係図		
	縮 尺	V=1/100, H=NON		
	月 日	令和8年7月	葉 内	2 / 11

水 位	
Q3	時間最大汚水量時
Q2	日最大汚水量時
Q1	日平均汚水量時



地下1階下部平面図 S=1/100

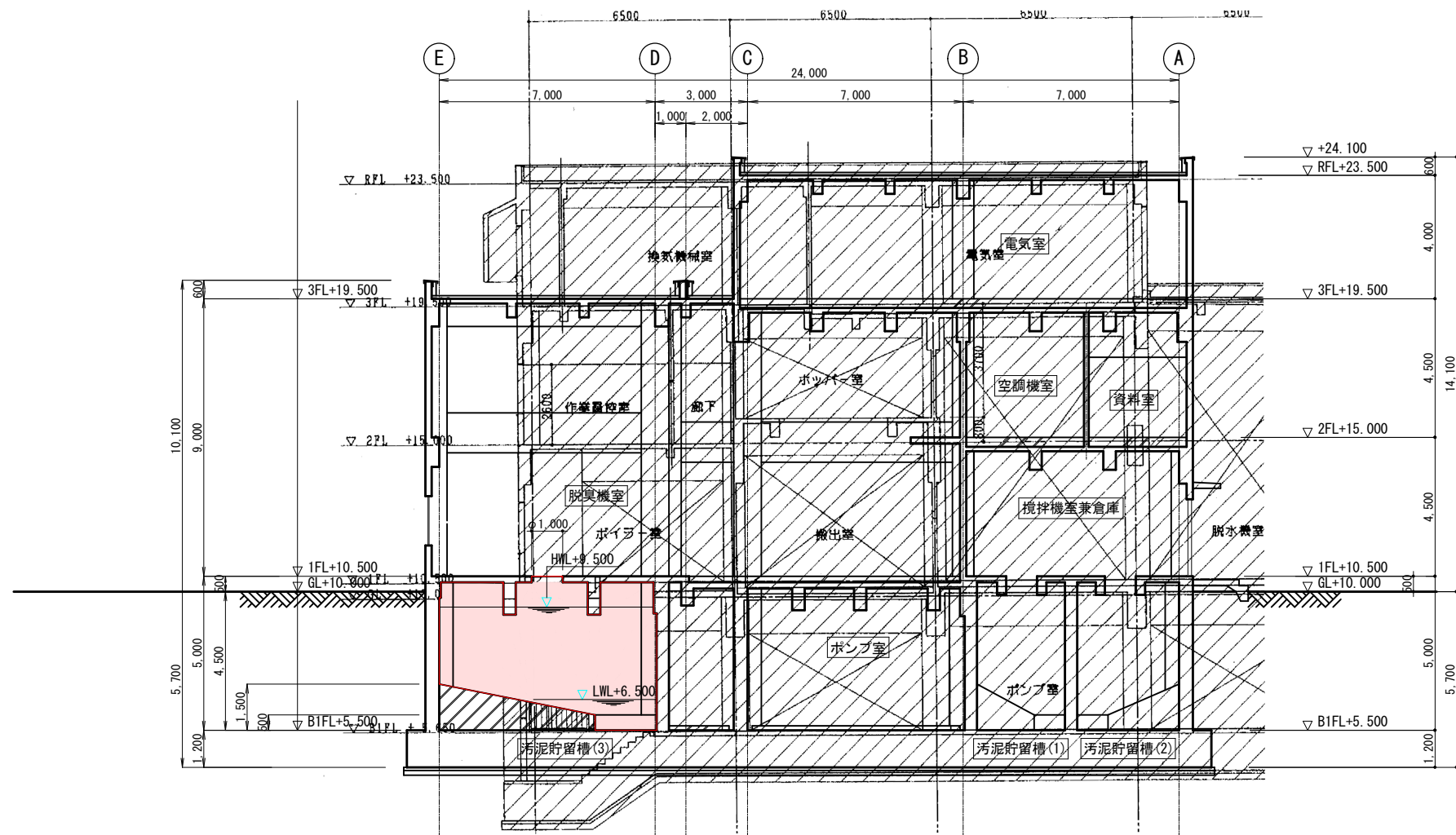


1階平面図 S=1/100

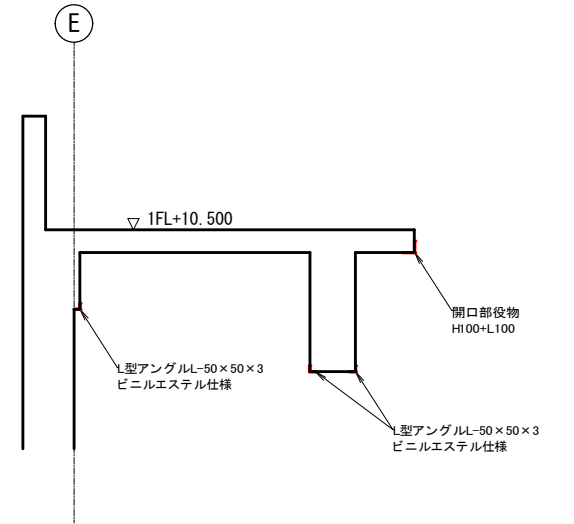
今回工事		今回事業
高圧洗浄工		218.0 m ²
劣化部除去工	超高压200N/mm2以上	204.0 m ²
断面修復工	小梁補強工	1 式
	床 修復厚10mm	48.0 m ²
	壁 修復厚30mm	115.0 m ²
	天井 修復厚30mm	44.0 m ²
	役物 修復厚30mm	2.0 m ²
防食塗装工	腐食環境条件：I 類	底部 48.0 m ²
	設計腐食環境条件：I 類（容易）	壁 124.0 m ²
	工法規格：D種（塗布型ライニング工法）	天井 44.0 m ²
		役物 2.0 m ²
	梁下部端部補強（L型アングル）L-50×50×3	48.0 m

※防食被覆は耐有機酸性能を有すること。
※断面修復材は耐硫酸性を有すること。
※劣化部除去により露出した足掛金物の芯材に断面欠損が確認される場合は監督職員と協議のうえ参考図-1に示す対応とする。

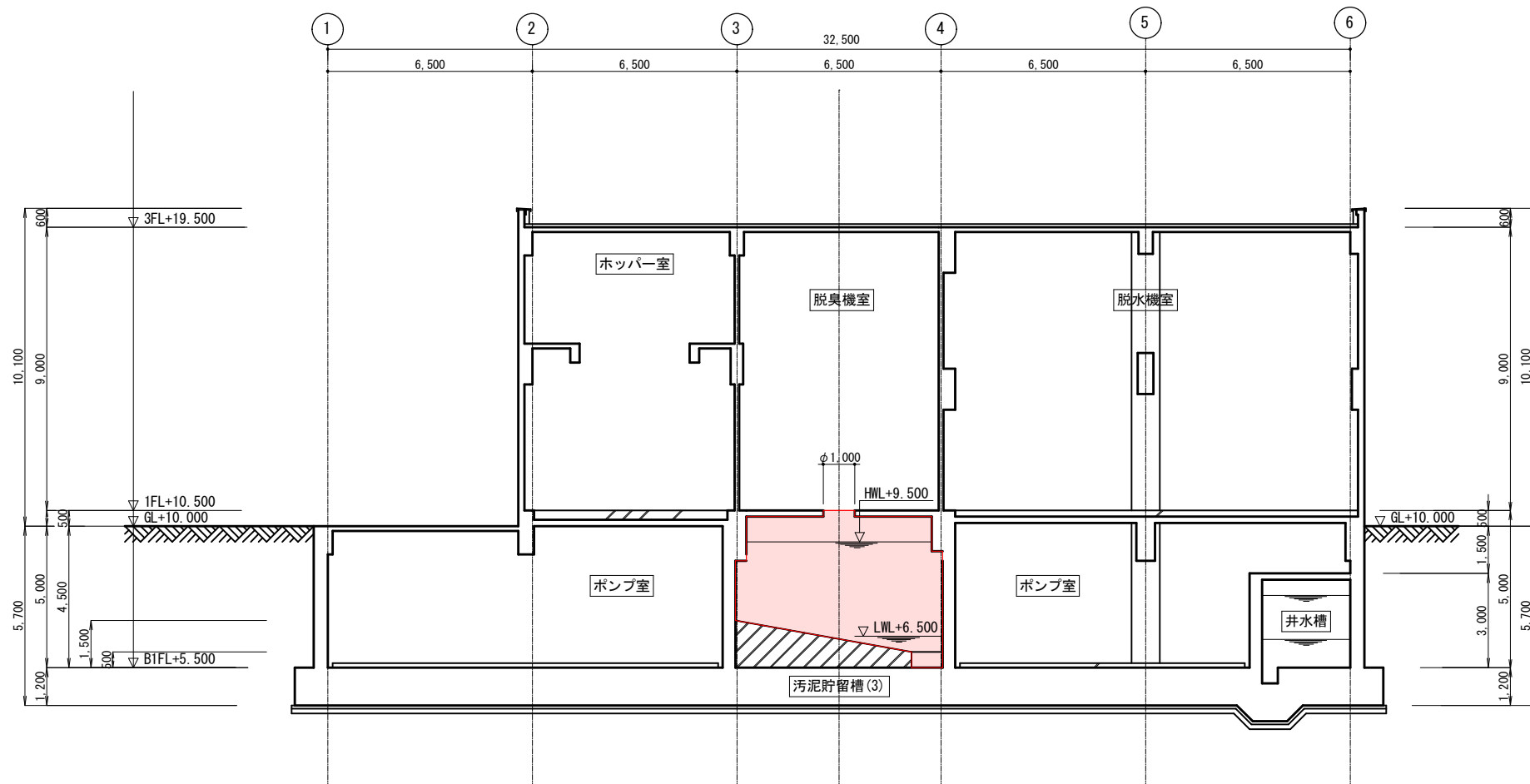
宮古市上下水道部施設課	工 事 名	宮古浄化センターNo. 3 汚泥貯留槽修繕工事		
	図 種	汚泥貯留槽防食塗装範囲平面図		
	縮 尺	S=1/100		
	月 日	令和8年7月	業 内	3 / 1 1



A - A 断面図 S=1/100



梁下部・端部詳細図 S=1/30



B - B 断面図 S=1/100

防食塗装工 D種		今回工事
高圧洗浄工		218.0 m ²
劣化部除去工	超高圧200N/mm ² 以上	204.0 m ²
断面修復工	小梁補強工	1 式
	床 修復厚10mm	48.0 m ²
	壁 修復厚30mm	115.0 m ²
	天井 修復厚30mm	44.0 m ²
	役物 修復厚30mm	2.0 m ²
防食塗装工	腐食環境条件：I 類	底部 48.0 m ²
	設計腐食環境条件：I 類（容易）	壁 124.0 m ²
	工法規格：D種（塗布型ライニング工法）	天井 44.0 m ²
		役物 2.0 m ²
	梁下部端部補強(L型アングルL-50×50×3)	48.0 m

※防食被覆は耐有機酸性能を有すること。
※断面修復材は耐硫酸性を有すること。
※劣化部除去により露出した足掛金物の芯材に断面欠損が確認される場合は監督職員と協議のうえ参考図-1に示す対応とする。

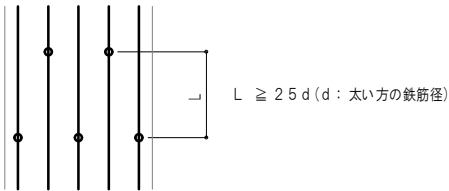
宮古市上下水道部施設課	工 事 名	宮古浄化センターNo. 3 汚泥貯留槽修繕工事		
	図 種	汚泥貯留槽防食塗装範囲断面図		
	縮 尺	S = 1/100・1/30		
	月 日	令和8年7月	葉 内	4 / 1 1

構造細目共通図(土木構造物)		2 共通事項		4 鉄筋のかぶり 及び間隔		5. 1 表 鉄筋の重ね継手長さ	
令和8年版		2. 1 用語の定義		4. 1 かぶり厚さ		鉄筋の種類	
※本図面は(一社)全国上下水道コンサルタント協会が著作権を有するものである。 使用にあたっては、上記協会への使用願いの提出と、配布番号の記載が必要である。 枠外右下の【協会員番号】と【配布番号】の記載が無い図面は無効とする。		本構造細目共通図中で使用する用語の定義は、2. 1 表のとおりとする。		かぶり厚さとは、一番外側の鉄筋(幅止め筋を除く)の外面から躯体面までの距離(4. 1 図)をいう。 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上を確保し、最小かぶり厚に許容施工誤差10mmを加えた厚さ以内に納めるものとする。		鉄筋の種類	
1 特記事項		2. 1 表 用語の定義		かぶり厚さ		鉄筋の種類	
1. 1 適用範囲		用 語		かぶり厚さ		鉄筋の種類	
(1) 本構造細目共通図は、下水道施設における処理場、ポンプ場の土木構造物に適用する。		説 明		増打		鉄筋の種類	
(2) 図面及び構造細目共通図に記載されていない事項は、下記に基づくものとし、これらに相違がある場合は監督職員に確認し指示を受ける。		主 鉄 筋		かぶり厚さ		鉄筋の種類	
1) 土木工事特記仕様書 全国上下水道コンサルタント協会 (別紙による。)		配 力 鉄 筋		かぶり厚さ		鉄筋の種類	
2) 土木工事共通仕様書 国土交通省 (令和 6 年版)		せん断補強鉄筋		かぶり厚さ		鉄筋の種類	
3) コンクリート標準示方書・施工編 土木学会 (2017年版)		幅 止 め 鉄 筋		かぶり厚さ		鉄筋の種類	
4) コンクリート標準示方書・設計編 土木学会 (2017年版)		はりの水平用心鉄筋、スラブ、壁の主鉄筋 あるいは配力鉄筋の厚み方向の間隔を確保するための鉄筋		かぶり厚さ		鉄筋の種類	
(3) 項目は○ 印のついたものを適用する。○ 印のない場合は、※ 印のあるものを適用する。○ 印と※ 印のある場合は、共に適用する。		2. 2 一般注意事項		4. 1 図 鉄筋のかぶり厚さ		5. 2 表 鉄筋の定着の長さ	
1. 2 鉄筋の仕様及び継手		設計図は、監督職員の承諾を得なければ変更してはならない。変更の必要を生じた場合は、監督職員と協議すること。		4. 2 最小かぶり厚さ		鉄筋の種類	
鉄筋の種類及び継手は1. 1 表による。		3 鉄筋の折曲げ加工		最小かぶり厚さは、4. 1 表による。 床版、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、均しコンクリートの厚さを含まない。		鉄筋の種類	
1. 1 表 鉄筋の種類及び継手		鉄筋の折曲げ加工は、3. 1 表及び3. 2 表を標準とする。 (1) Dは、折曲げ内法直径を示す。 (2) dは、鉄筋直径(呼び名)を示す。		4. 1 表 鉄筋の最小かぶり厚さ(mm)		鉄筋の種類	
種 別		3. 1 表 鉄筋曲げ加工(1)		※ 通常の施工の場合		鉄筋の種類	
鉄筋の種類		位 置		環 境		鉄筋の種類	
鉄筋の継手		曲げ角度		部 位		鉄筋の種類	
ガス圧接		折曲げ図及び折曲げ後の余長		床版・スラブ・梁		鉄筋の種類	
機械式継手		曲げ内法直径		柱・壁		鉄筋の種類	
図面による		使用箇所		底版・フーチング		鉄筋の種類	
1. 3 コンクリートの仕様		末端部		対策区分		鉄筋の種類	
コンクリートは1. 2 表による。		90°		環境		鉄筋の種類	
1. 2 表 コンクリートの仕様		135°		環境		鉄筋の種類	
分 類		90°		環境		鉄筋の種類	
コンクリート種別		90°		環境		鉄筋の種類	
設計基準強度(N/mm ²)		90°		環境		鉄筋の種類	
スラブ(㎝)		90°		環境		鉄筋の種類	
セメントの種類		90°		環境		鉄筋の種類	
※ 普通コンクリート		90°		環境		鉄筋の種類	
※ 24・30		90°		環境		鉄筋の種類	
※ 12		90°		環境		鉄筋の種類	
※ 高炉セメントB		90°		環境		鉄筋の種類	
普通ポルトランドセメント		90°		環境		鉄筋の種類	
低熱ポルトランドセメント		90°		環境		鉄筋の種類	
※ 普通コンクリート		90°		環境		鉄筋の種類	
※ 18		90°		環境		鉄筋の種類	
※ 12		90°		環境		鉄筋の種類	
※ 高炉セメントB		90°		環境		鉄筋の種類	
普通ポルトランドセメント		90°		環境		鉄筋の種類	
注1: 無筋コンクリートには均しコンクリートを含む。		90°		環境		鉄筋の種類	
1. 4 砕石基礎工及び均しコンクリート工		90°		環境		鉄筋の種類	
砕石基礎工及び均しコンクリートは1. 3 表による。		90°		環境		鉄筋の種類	
1. 3 表 砕石基礎工及び均しコンクリート工の仕様		90°		環境		鉄筋の種類	
種 別		90°		環境		鉄筋の種類	
厚 さ (mm)		90°		環境		鉄筋の種類	
砂利または砕石		90°		環境		鉄筋の種類	
※ 200		90°		環境		鉄筋の種類	
均しコンクリート		90°		環境		鉄筋の種類	
※ 100		90°		環境		鉄筋の種類	
3. 2 表 鉄筋曲げ加工(2)		90°		環境		鉄筋の種類	
位 置		90°		環境		鉄筋の種類	
曲げ角度		90°		環境		鉄筋の種類	
折曲げ図		90°		環境		鉄筋の種類	
曲げ内法直径		90°		環境		鉄筋の種類	
使用箇所		90°		環境		鉄筋の種類	
最上階		90°		環境		鉄筋の種類	
90°		90°		環境		鉄筋の種類	
20d以上		90°		環境		鉄筋の種類	
一般階		90°		環境		鉄筋の種類	
90°		90°		環境		鉄筋の種類	
5d以上		90°		環境		鉄筋の種類	
ラーメン隅角部		90°		環境		鉄筋の種類	
5. 1 鉄筋の継手及び定着		90°		環境		鉄筋の種類	
5. 1. 1 継手長さ及び定着長の基本		90°		環境		鉄筋の種類	
(1) 鉄筋の重ね継手長さは5. 1 表、定着の長さは、5. 2 表による。		90°		環境		鉄筋の種類	
①本表の適用は、鉄筋種類SD345、鉄筋径D13～D32とする。		90°		環境		鉄筋の種類	
②定着長は折曲げ加工後の直線部分で確保する。		90°		環境		鉄筋の種類	
③壁、床版、底版の主鉄筋の中心間隔が100mm未満の場合は、別途図示による。		90°		環境		鉄筋の種類	
5. 2 図 重ね継手工法		90°		環境		鉄筋の種類	
宮古市上下水道部施設課		90°		環境		鉄筋の種類	
工 事 名		90°		環境		鉄筋の種類	
宮古浄化センターNo.3汚泥貯留槽修繕工事		90°		環境		鉄筋の種類	
図 種		90°		環境		鉄筋の種類	
構造細目共通図(1)		90°		環境		鉄筋の種類	
縮 尺		90°		環境		鉄筋の種類	
NON		90°		環境		鉄筋の種類	
月 日		90°		環境		鉄筋の種類	
令和8年7月		90°		環境		鉄筋の種類	
葉 内		90°		環境		鉄筋の種類	
5/11		90°		環境		鉄筋の種類	

5.2.2 鉄筋のガス圧接および機械式継手

鉄筋のガス圧接継手及び機械式継手は土木学会「鉄筋定着・継手指針[2020年版]」(土木学会)による。機械式継手は、ねじふし鉄筋継手工法とする。また、ねじふし鉄筋継手工法以外の機械式継手を採用する場合は、監督職員の承諾を得ること。

- (1) 同一断面での継手は軸方向に相互にずらす。
(2) ガス圧接の場合のずらす距離(L)は、太い方の鉄筋径の2.5倍以上とする。
(3) 機械式継手のずらす距離(L)は、太い方の鉄筋径の2.5倍以上とする。
(4) 機械式継手をイモ継ぎ部に使用する場合は、継手性能はS A級かつ継手信頼度を1種とする。



5.3図 ガス圧接継手工法及び機械式継手工法

6 配筋要領

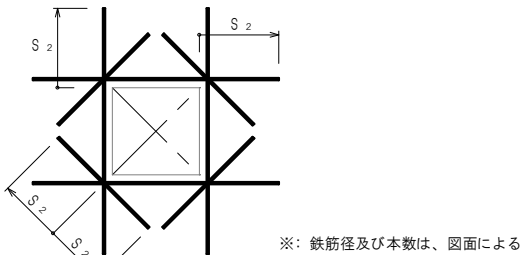
6.1 壁

6.1.1 一般事項

- (1) 壁の鉄筋の継手及び定着は、5.1項及び5.2項に基づくものとする。
(2) 幅止め鉄筋の鉄筋径及び間隔は、図面による。

6.1.2 壁開口部の補強

- (1) 壁開口部の補強は、図面による。補強鉄筋の長さ及び位置は、6.1図を標準とする。

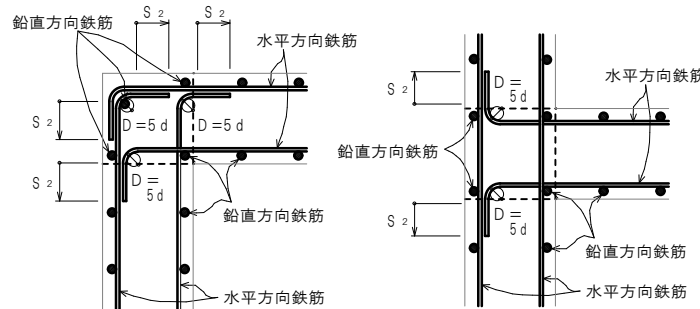


6.1図 壁開口部の補強要領

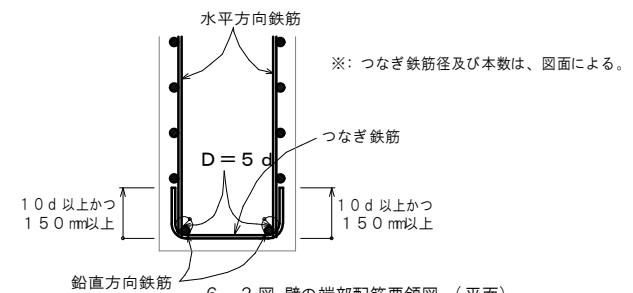
- (2) 開口寸法が配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋出来る場合は、補強鉄筋を省略することができる。

6.1.3 壁と壁の交差部及び端部

- (1) 壁と壁の交差部の鉄筋加工要領は、6.2図による。
(2) 壁の端部の鉄筋加工要領は、6.3図による。



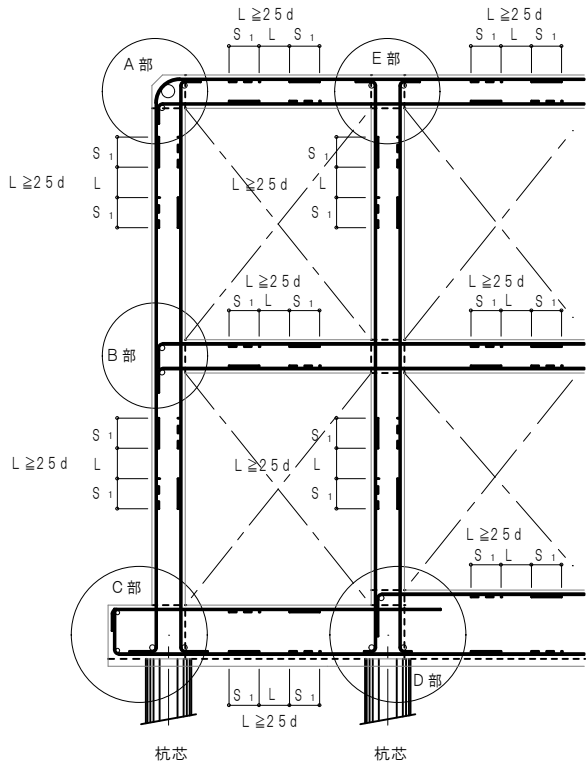
6.2図 壁と壁の交差部配筋要領図(平面)



6.3図 壁の端部配筋要領図(平面)

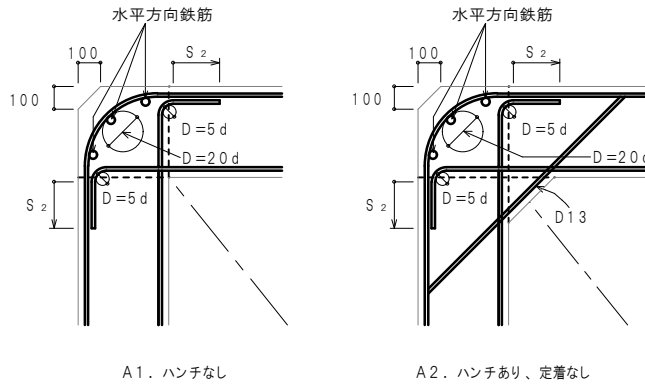
6.1.4 壁と床版・底版の交差部

- (1) 壁と床版の交差部は、6.4図及び6.5図による。



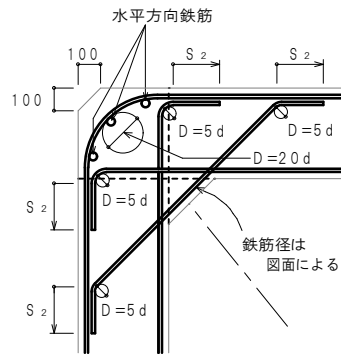
注1: 重ね継手は、応力の小さい位置とする。

6.4図 壁と床版・底版の交差部配筋要領図(断面)



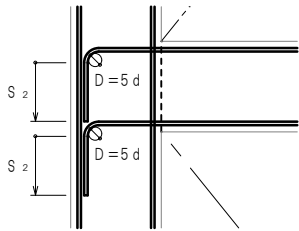
A1. ハンチなし

A2. ハンチあり、定着なし

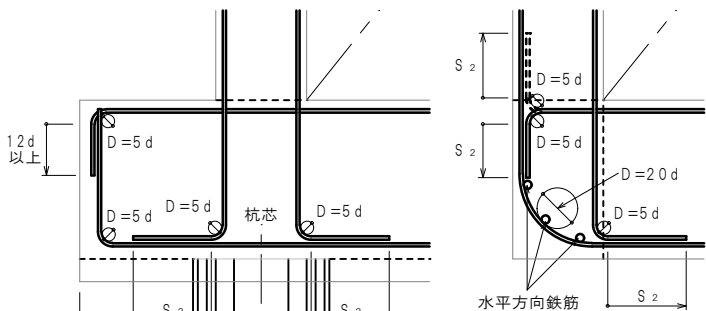


A3. ハンチあり、定着あり

(1) A部詳細図



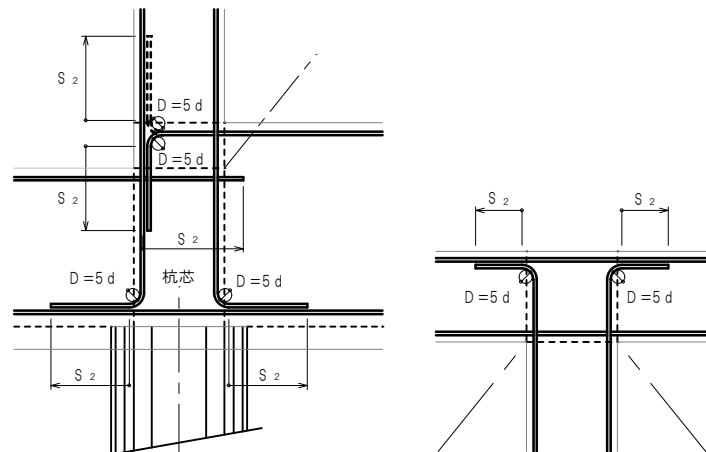
(2) B部詳細図



C1. 杭あり

C2. 杭なし

(3) C部詳細図



※配筋要領は杭あり、杭なしとも同一

(4) D部詳細図

(5) E部詳細図

凡例

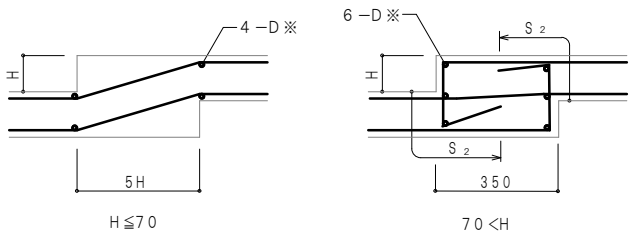
- ・D: 鉄筋の曲げ内法直径
・d: 鉄筋直径(呼び名)
・S1, S: 5.1表のとおりであり、折曲げ加工後の直線長で確保する長さ
注1: A部以外においてハンチを設ける場合は、ハンチ筋についてA部に準じた配筋とする。
注2: ハンチを設ける場合の配筋は、図面に指示がない場合はA2を、図面に指示がある場合はA3を適用する。
注3: C部の杭なしの場合、及びD部において、底版上端筋の曲げ定着は下方に取ることを原則とするが、部材厚等の関係で直線状にS2定着長が確保できない場合は、上方に取ることによりよいものとする。
注4: Lは、場所打杭・打ち込み杭・埋め込み杭は1.0D(Dは杭径)以上とする。

6.5図 壁と床版・底版の交差部配筋詳細図(断面)

6.2 床

6.2.1 段差床版の補強

- (1) 同一床版に段差がある場合、6.6図の補強を行う。

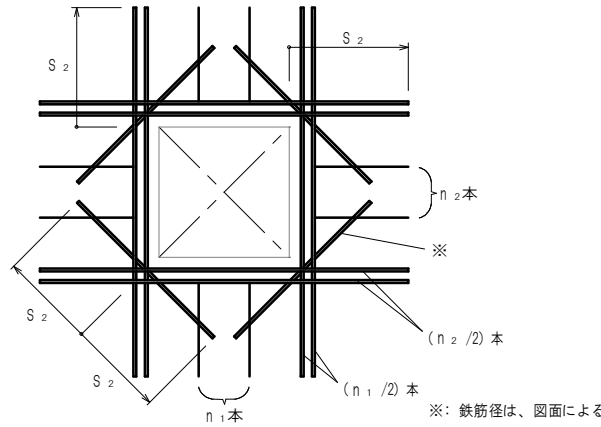


※: 鉄筋径は、図面による。

6.6図 同一床版に段差がある場合の補強要領図(断面)

6.2.2 床版開口部の補強

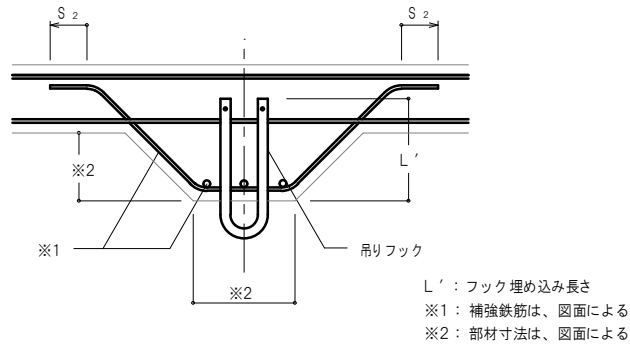
- (1) 床版開口部の補強は開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部には斜め方向に主鉄筋径以上の鉄筋を上下筋の内側に配筋する。(6.7図)



6.7図 床版開口部の補強要領図(平面)

- (2) 開口寸法が配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより開口部を避けて配筋できる場合は、補強鉄筋を省略することができる。

6.2.3 吊りフックが取り付けられる場合の補強



6.8図 吊りフック取り付け部補強要領図(断面)

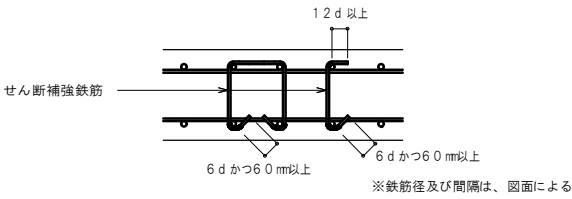
5.2図 重ね継手工法

宮古市上下水道部施設課	工 事 名	宮古浄化センターNo.3 汚泥貯留槽修繕工事		
	図 種	構造細目共通図(2)		
	縮 尺	NON		
	月 日	令和8年7月	葉 内	6/11

6.3 せん断補強鉄筋

6.3.1 底板・床版

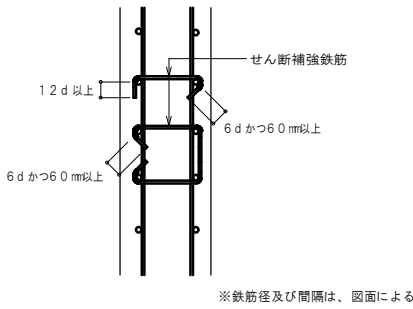
(1) 底板・床版のせん断補強要領は6.9図及び6.11図による。



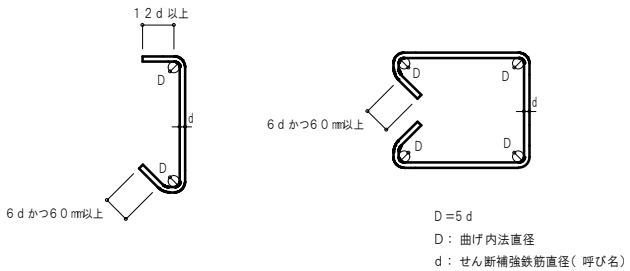
6.9図 底板・床版せん断補強要領図(断面)

6.3.2 壁

(1) 壁のせん断補強要領は、6.10図及び6.11図による。



6.10図 壁せん断補強要領図(断面)



6.11図 せん断補強鉄筋加工要領図(断面)

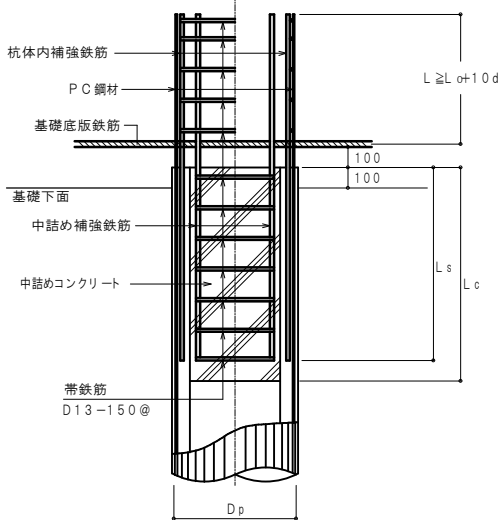
6.4 柱及び梁

柱及び梁を設ける場合の配筋要領は、図面による。

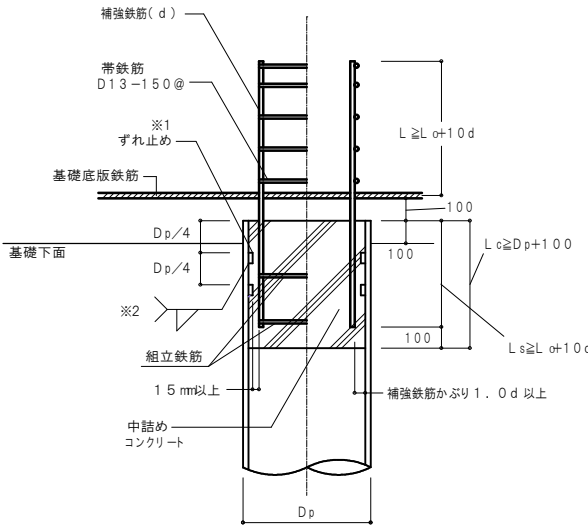
7 杭基礎の補強

7.1 一般事項

- (1) 補強鉄筋にSD390またはSD490を用いる場合、中詰めコンクリート及び補強鉄筋が定着する基礎底板コンクリートの設計標準強度を30N/mm以上とする。
- (2) 鉄筋種別、径・本数は、図面による。
- (3) 杭基礎の補強鉄筋の定着長Lは、SD345及びSD390では35d以上、SD490では41d以上とする。
- (4) 杭頭補強鉄筋が底板厚より長くなる場合は、7.6図による。
- (5) 杭体内補強鉄筋は必要に応じ配置する。



7.1図 PHC杭の杭頭補強

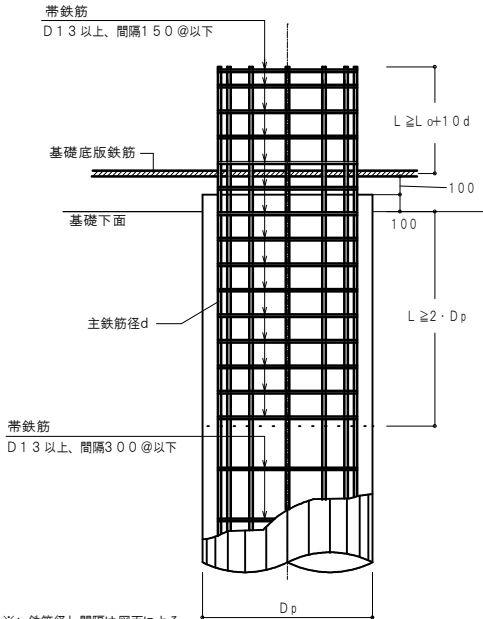


7.2図 鋼管杭の杭頭補強

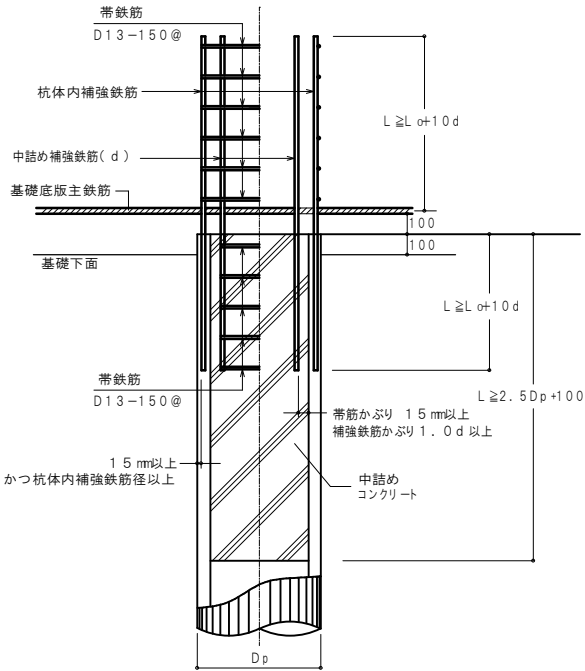
7.1表 杭体内外ずれ止めプレートの肉厚

杭径(Dp)	ずれ止め厚さ
Dp<800	9
800≦Dp<1200	12
1200≦Dp<1500	16

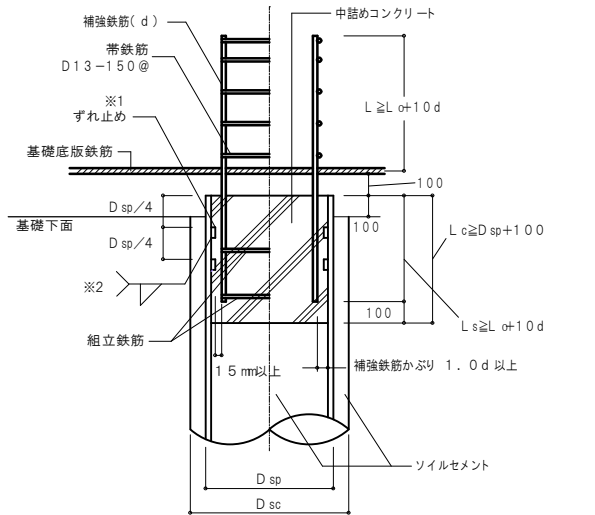
※材質はSS400



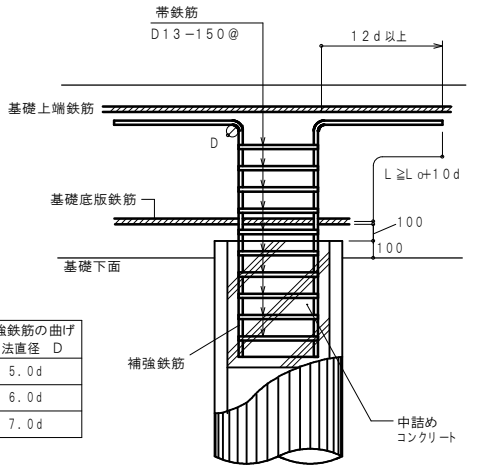
7.3図 場所打ち杭の杭頭補強



7.4図 SC杭の杭頭補強



7.5図 鋼管ソイルセメント杭の杭頭補強

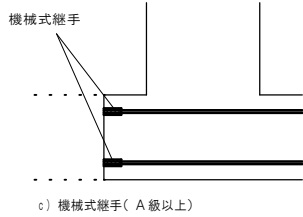
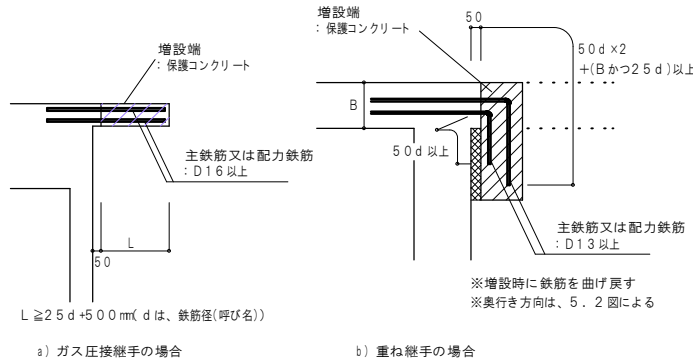


7.6図 杭頭補強鉄筋が底板厚より長くなる場合の杭頭補強

8 増設予定端

8.1 増設予定端の配筋

- (1) 増設端鉄筋の継手工法は、D16以上をガス圧接、D13を重ね継手とすることを原則とし、8.1図のa)、b)による。部材寸法及び鉄筋の径と間隔は図面による。
- (2) 増設端の鉄筋を保護するコンクリート強度は18N/mmとする。
- (3) D13以上の鉄筋について機械式継手を用いる場合は、8.1図のc)による。機械式継手の仕様は「鉄筋定着・継手指針[2020年版]」(土木学会)によるものとし、継手部の詳細及び継手単体に必要な特性を図面に示す。



※鉄筋径は図面による。
※機械式継手は、D13以上を対象とする。
※機械式継手をイモ継ぎに使用する場合は、構造計算書等により当該箇所に塑性ヒンジが発生しないことを確認する必要がある。施工上やむを得ず機械式継手によるイモ継ぎとなる場合は、継手部が所要の耐震性を有していることを、適切な実験や解析等で照査しなければならない。詳細は「鉄筋定着・継手指針[2020年版]」(土木学会)による。

8.1図 増設予定端配筋要領図(断面)

宮古市上下水道部施設課	工事名	宮古浄化センターNo.3 汚泥貯留槽修繕工事		
	図種	構造細目共通図(3)		
	縮尺	NON		
	月日	令和8年7月	葉内	7/11

9 耐震補強

9.1 適用範圍

(1) 本構造細目共通図は、下水道施設における処理場、ポンプ場の土木構造物の耐震補強に適用する。

(2) 図面及び構造細目共通図に記載されていない事項は、下記に基づくものとし、これらに相違がある場合は監督職員に確認し指示を受ける。

1)	土木工事特記仕様書	全国上下水道コンサルタント 協会	(別紙による。)
2)	土木工事共通仕様書	国土交通省	(令和 6 年版)
3)	コンクリート 標準方書・施工編	土木学会	(2017年版)
4)	コンクリート 標準方書・構造性能照査編	土木学会	(2002年版)
5)	官庁施設の総合耐震診断・改修基準及び同解説	建築保全センター	(平成 8 年版)
6)	鉄筋定着・継手指針	土木学会	(2020年版)
7)	2017年改訂版 既存鉄筋コンクリート 造 建築物の耐震改修設計指針・同解説	日本建築防災協会	(2017年版)
8)	あと施工アンカー連続縦補強設計・施工指針	国土交通省	(2006年版)

9.2 鉄筋の仕様及び継手

鉄筋の種類及び継手は9. 2 表による。

9.2表 鉄筋の種類及び継手

	種 別	径
鉄筋の種類	※ SD345	※ D13 以上
鉄筋の継手	重ね継手	下記以外
	※1) ガス圧接	・ D19 以上の柱、梁主鉄筋 ・ D16 以上の増設端の床、壁鉄筋 ・
	フレアー溶接	・ D13 以上
	機械式継手	・ 図面による

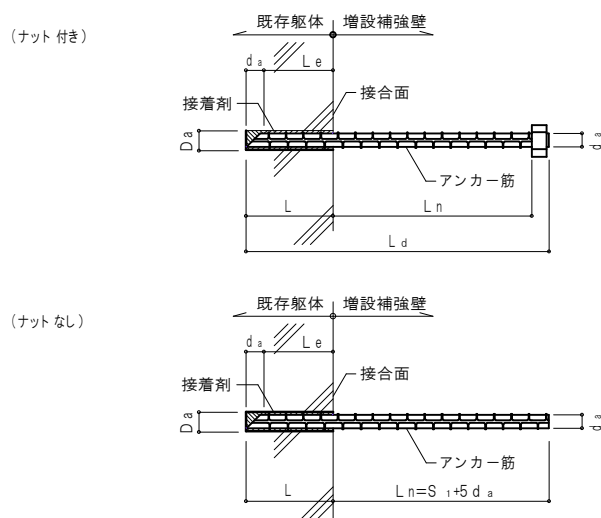
※1) 既存の鉄筋種別がSR235、295及びSD295Aの場合は、SD材との継手にガス圧接を使用してはならない。

9.3 鉄筋の継手長及び定着長

SD345 以外の鉄筋との継手長・定着長については図面による。

9.4 あと施工アンカー(接着系)

- (1) アンカー径は、D13 以上、D22 以下とする。
- (2) アンカーの打設は、増設壁が接合する四周の柱、梁に行うことを原則とする。
- (3) アンカーの埋め込み・定着長さを9.4表に示す。



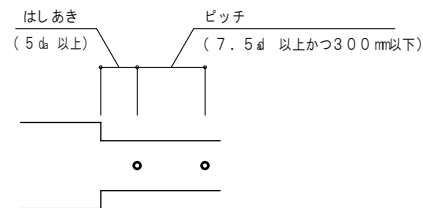
L : コンクリートの穿孔深さ、または接着系アンカーの埋め込み長さ
L_e : アンカーの有効埋め込み長さ
L_d : アンカー筋の全長
L_n : 有効定着長さ
D_a : 既存コンクリート 躯体への穿孔径
d_a : アンカー軸部の直径、アンカー筋の呼び名
S₁ : 補強筋との継手長

9.4.1 図 あと施工アンカー埋め込み・定着図

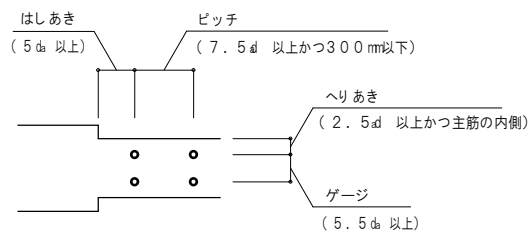
9.4 表 あと施工アンカー埋め込み・定着長さ

区 分	位 置	用 途	長 さ	備 考
有効埋め込み長 (L_d)	一般部	曲げモーメント	$1.2 \cdot d_a$	先端形状45° カット
		せん断力	$7 \cdot d_a$	
	開口補強部	曲げモーメント	$1.2 \cdot d_a$	
		せん断力	$10 \cdot d_a$	
有効定着長 (L_n)	一般部	—	$20 \cdot d_a$	ナットあり
	開口補強部	—	$S_1 + 5 \cdot d_a$	ナットなし

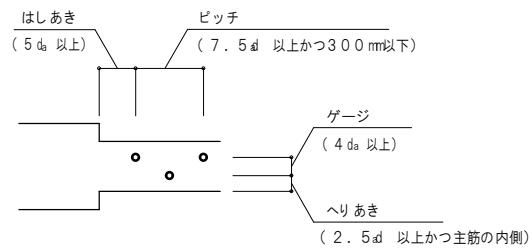
(あと施工アンカーの位置と間隔)



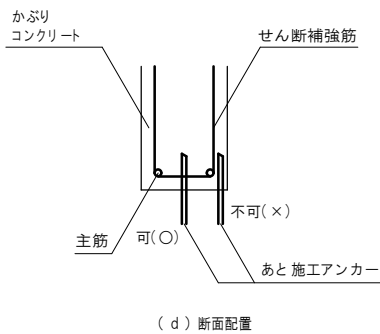
(a) シングル配置



(b) ダブル配置



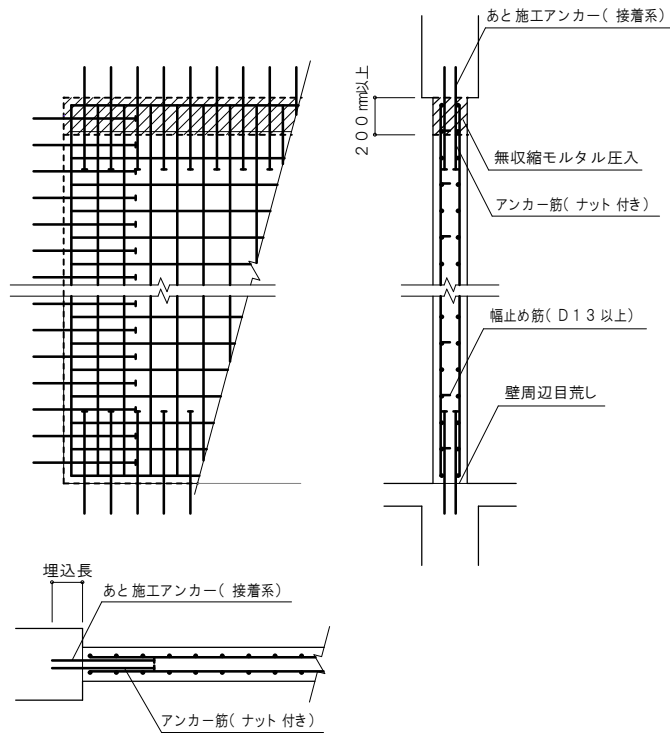
(c) 千鳥状配置



9.4.2 図 あと施工アンカー配置図

9.5 新設補強壁

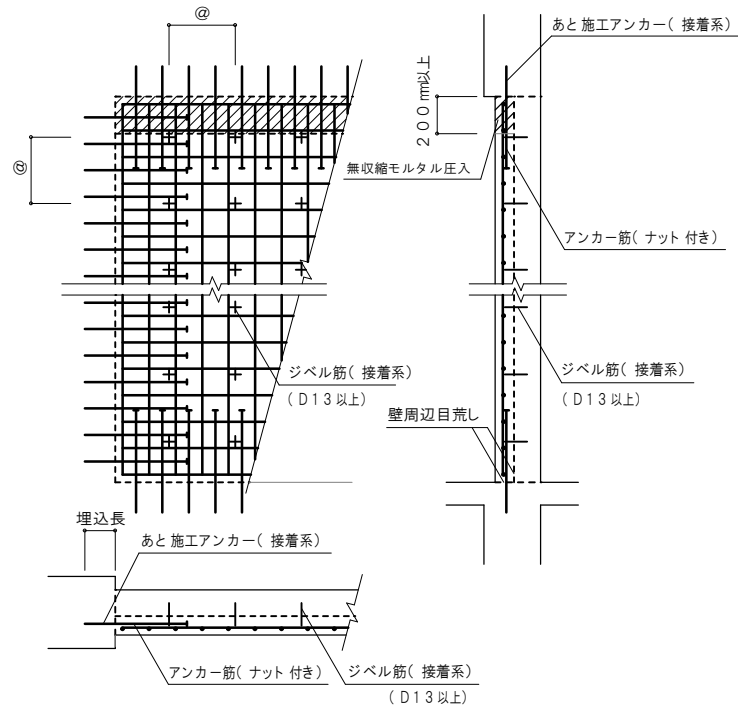
- (1) 新設補強壁の配筋は 9. 5 図を標準とする。
- (2) 新設部と接する既存の壁面には目荒しを施す。
- (3) あと施工アンカーは接着系とし、開口補強部を除き、アンカー筋はナット 付きとする。
- (4) 新設壁の頂部 2 0 0 mm 以上は、無収縮モルタル圧入とする。



9.5 図 新設補強壁要領図

9. 6 増打ち補強壁ほか

- (1) 増打ち補強壁の筋筋は 9 . 6 図を標準とする。
- (2) あと 施工アンカーは 接着系とし、開口補強部を除き、アンカー筋はナット 付きとする。
- (3) 増打ち部と 接する既存の壁面を 目指しするほか、新旧の壁面にジェル筋を 設けるものとし、配置間隔は 図面による。
- (4) 増打ち 壁の頂部 2 0 0 mm 以上は、無収縮モルタル 圧入とする。
- (5) 梁下端部や 垂れ壁下端部の 施工では、コンクリート の プリーディングや 沈下を 考慮して、打継目 が 一体となるように 留意する。



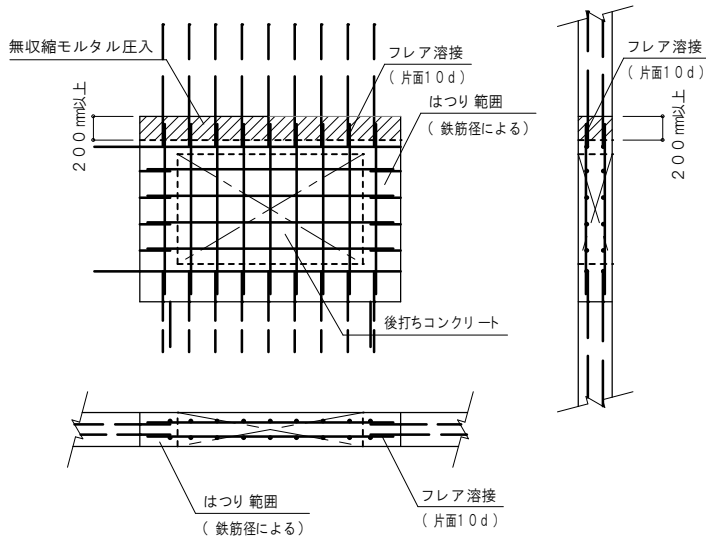
9.6 図 増打ち補強壁要領図

9.7 開口閉塞

(1) 既存壁と増設壁との接合は、開口周囲のコンクリートをはつり、鉄筋同士をフレア溶接で行う。

(2) 閉塞部分が既存梁、柱と接する部位は全てあと施工アンカーで接合する。

(3) 閉塞部分の頂部200 mm以上は、無収縮モルタル圧入とする。



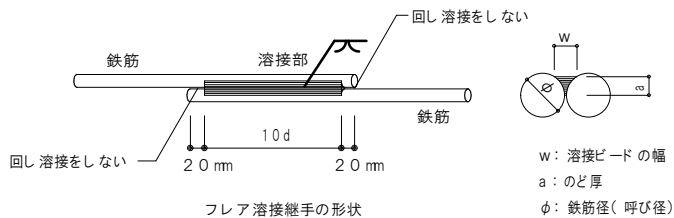
壁の鉄筋径	はつり 幅
D13	200
D16	200
D19	300
D22	300
D25	300

9.7 図 開口閉塞要領図

9.8 フレア溶接

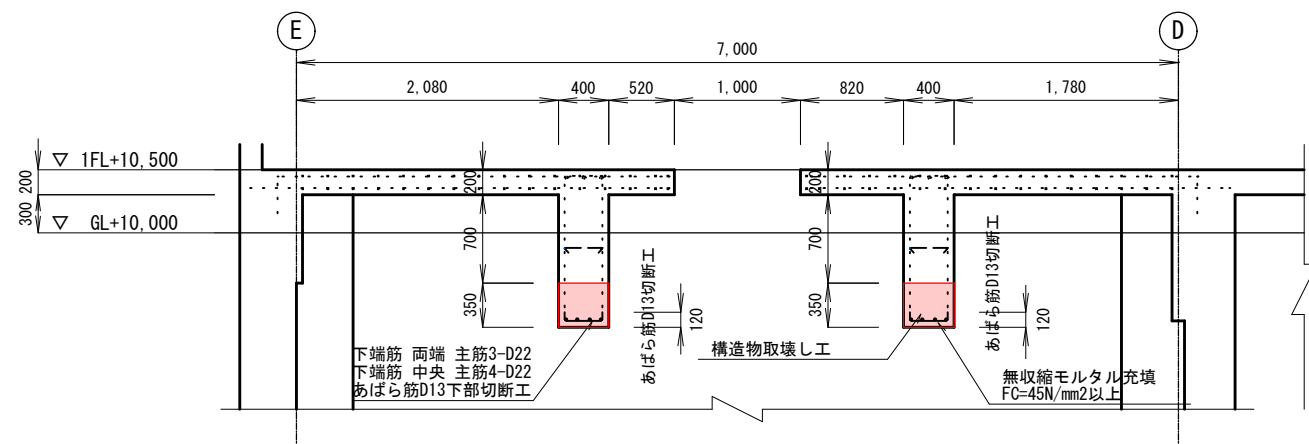
(1) 特記なき鉄筋のフレア溶接の継手形状を9.8図に示す。
(詳細は「鉄筋定着・継手指針[2020年版]」(土木学会)による。)

(2) 継手長さは鉄筋径の10倍とし、回し溶接は行わない。

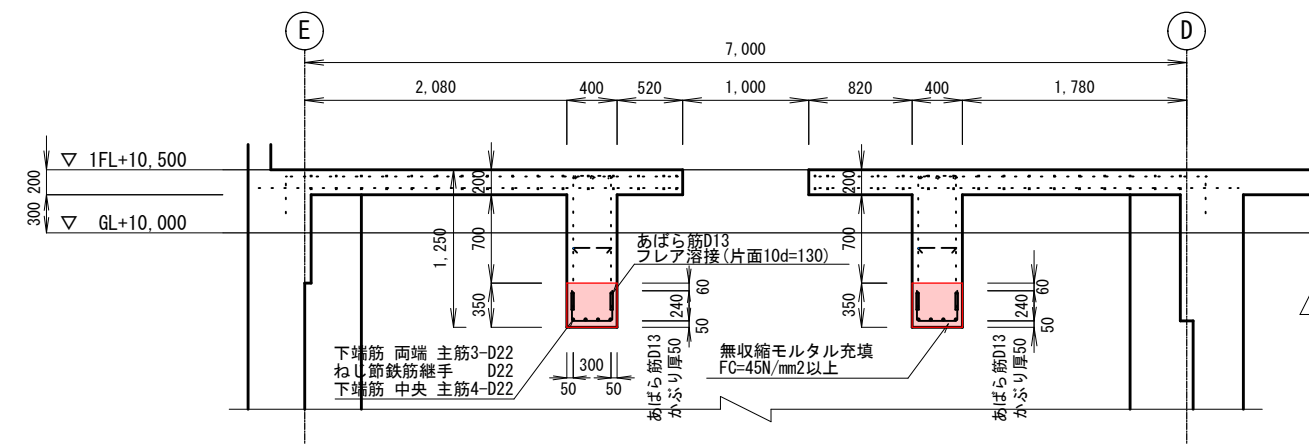


9.8 図 フレア溶接継手形状

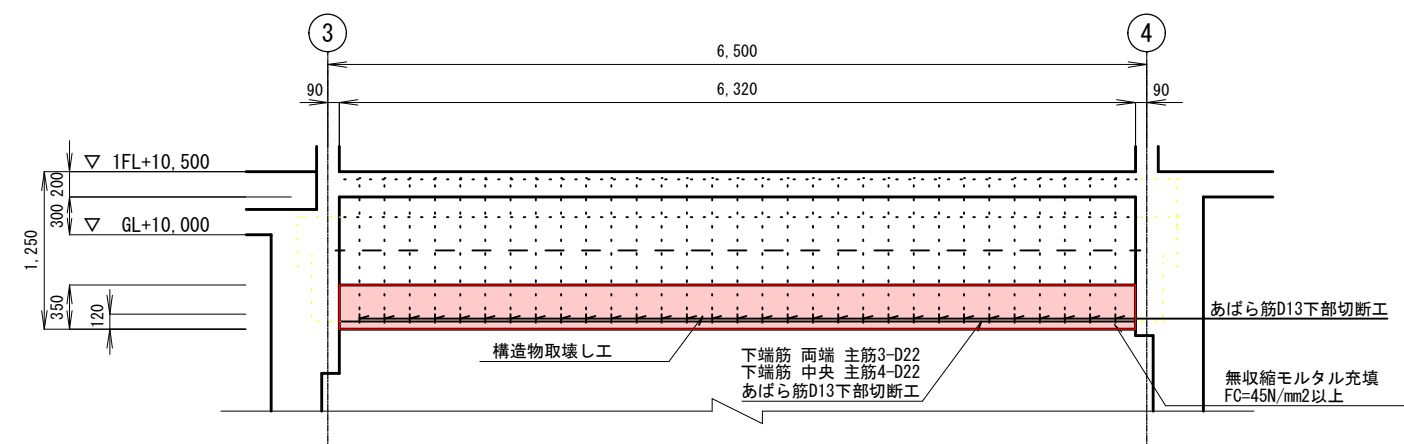
宮古市上下水道部施設課	工 事 名		宮古浄化センターNo. 3 汚泥貯留槽修繕工事	
	図 種		構造細目共通図 (4)	
	縮 尺		N O N	
	月 日	令和8年7月	葉 内	8 / 1 1



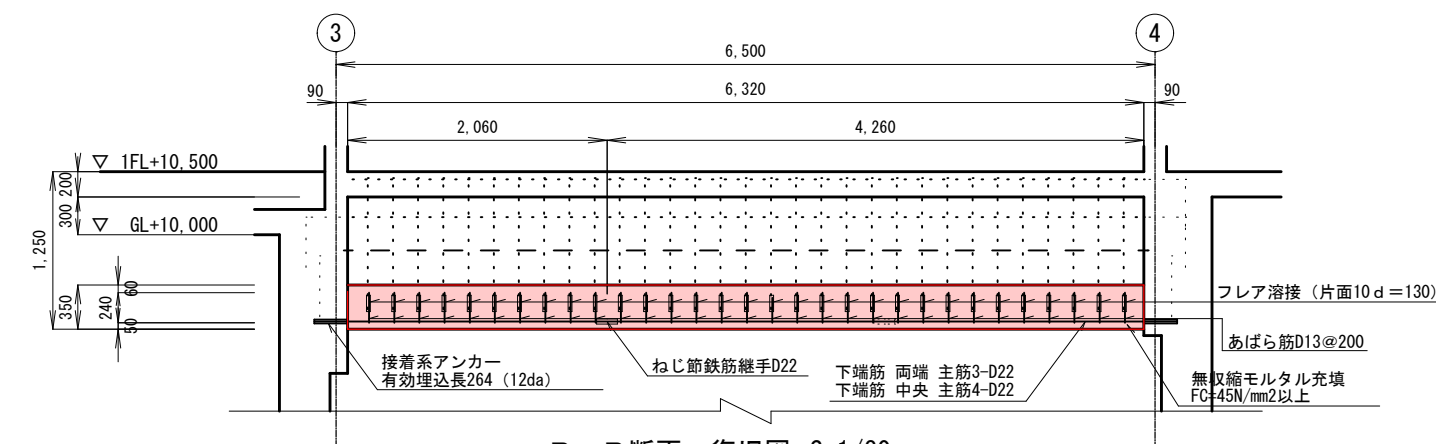
A-A断面 撤去図 S=1/30



A-A断面 復旧図 S=1/30

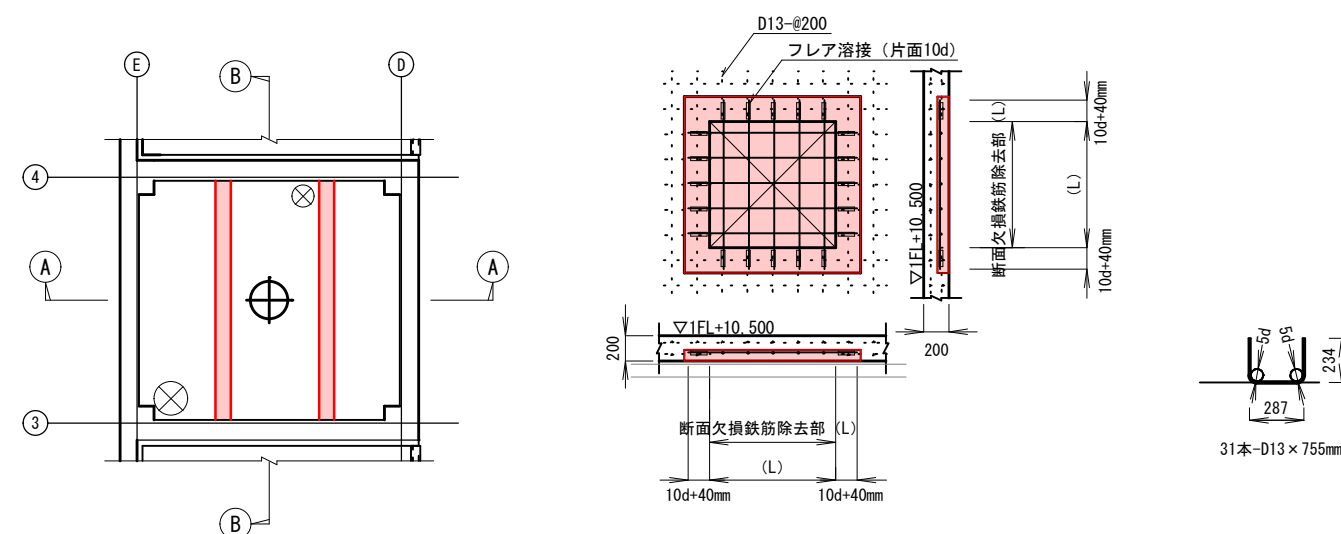


B-B断面 撤去図 S=1/30



B-B断面 復旧図 S=1/30

< KEYPLAN >



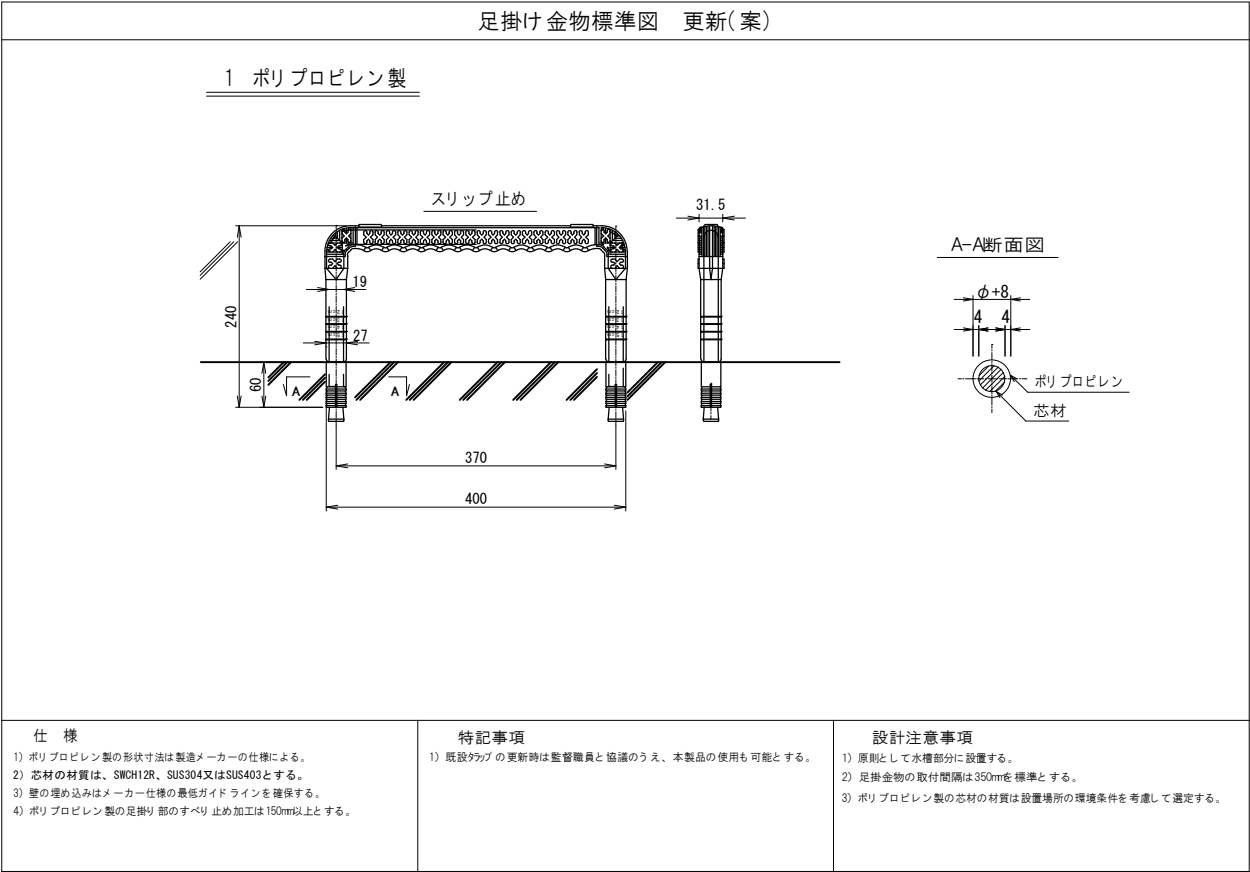
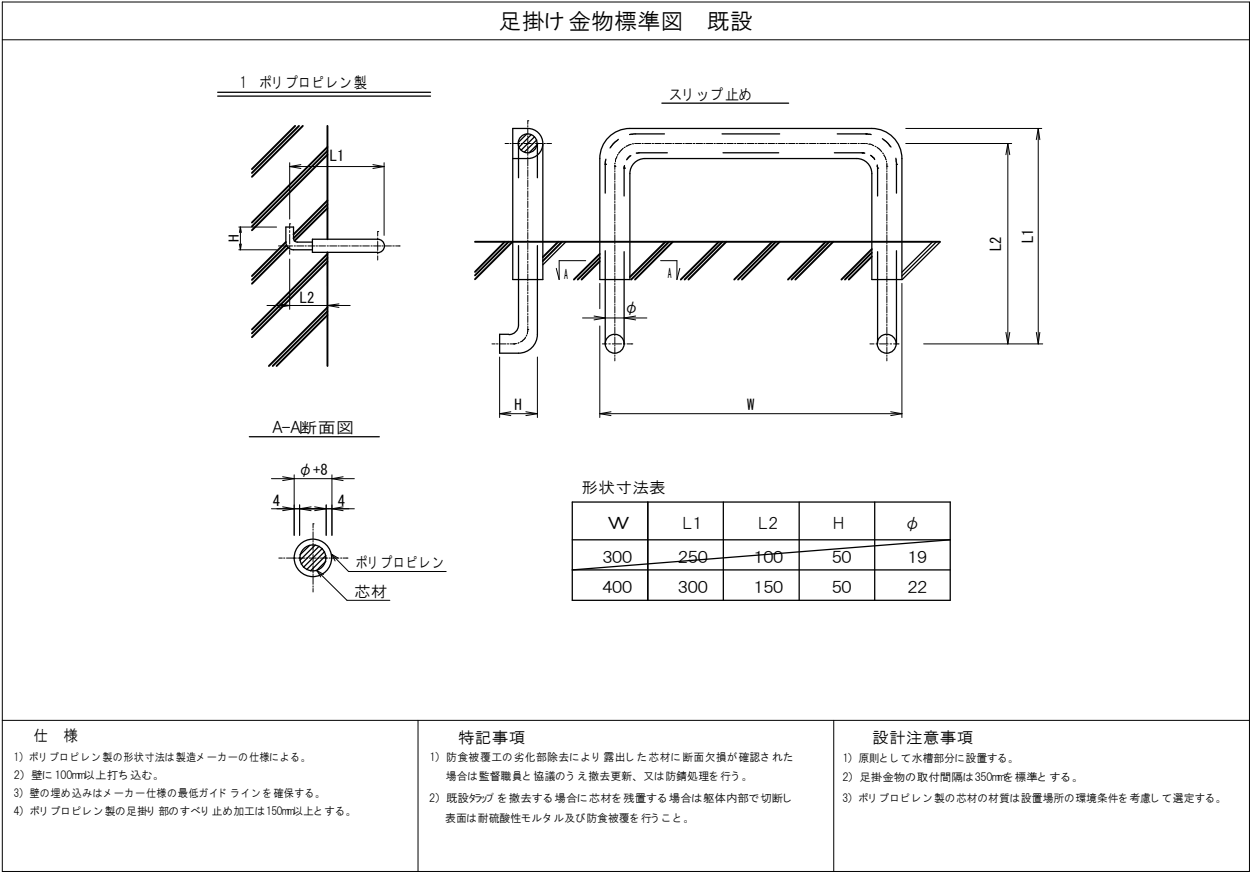
1F床版下端筋補強(参考図) S=1/30

あばら筋加工図 S=1/20

- ※1_構造物取壊し範囲(劣化部除去)はフェノールフタレインで赤色に呈色することを確認すること、取壊し範囲が拡大する場合は監督職員と協議のうえ施工とする。
- ※2_劣化部除去工にて鉄筋が露出し腐食が確認される場合は、監督職員と協議のうえ防錆処理又は補強等を実施すること。
- ※3_図示▽はカッター目地を示す、劣化部の範囲に併せ変更すること。
- ※4_ねじ鉄筋継手をイモ継ぎ部を使用する場合はSA級とする。
- ※5_1F床版下端筋補強(参考図)は劣化部除去工にて鉄筋が露出し断面欠損が確認される場合に適用する。
- ※6_本図及び断面修復に係る品質規格は日本下水道事業団「下水道コンクリート構造物の腐食抑制技術及び防食技術マニュアル」断面修復用モルタルの品質規格とする。
- ※7_あばら筋の撤去更新について、劣化部除去時に鉄筋に異常が無く躯体劣化部除去後に再利用可能な場合は監督職員と協議のうえ残置とする。
- ※8_あばら筋のフレア溶接継手形状については(8/11)9.8フレア溶接による。
- ※9_本図以外の補強詳細は構造細目共通図による。

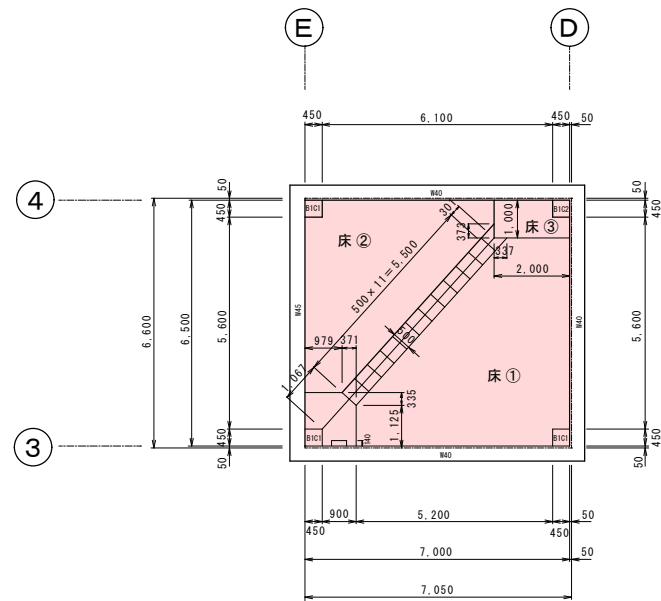
宮古市上下水道部施設課	工 事 名	宮古浄化センターNo. 3 汚泥貯留槽修繕工事		
	図 種	小梁補強図		
	縮 尺	S=1/30		
	月 日	令和8年7月	葉 内	9 / 1 1

雑詳細図(参考図) S= non

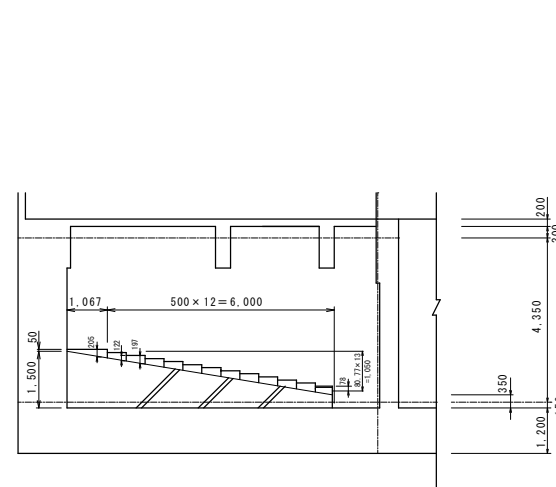


宮古市上下水道部施設課	工事名	宮古浄化センターNo.3 汚泥貯留槽修繕工事		
	図種	雑詳細図(参考図)		
	縮尺	S=NON		
	月日	令和8年7月	葉内	(参考図-1) 10/11

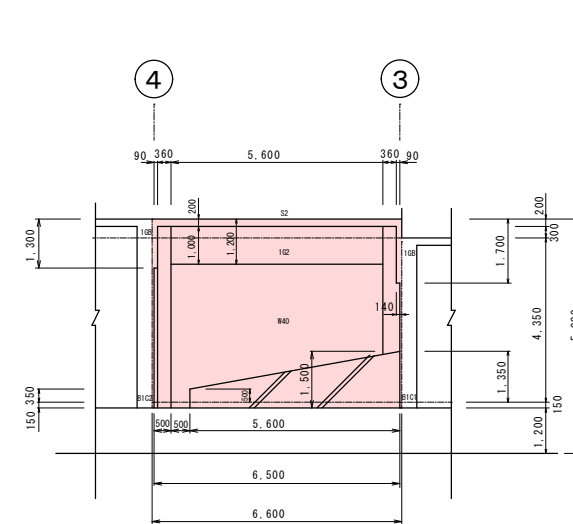
床面積（参考図）



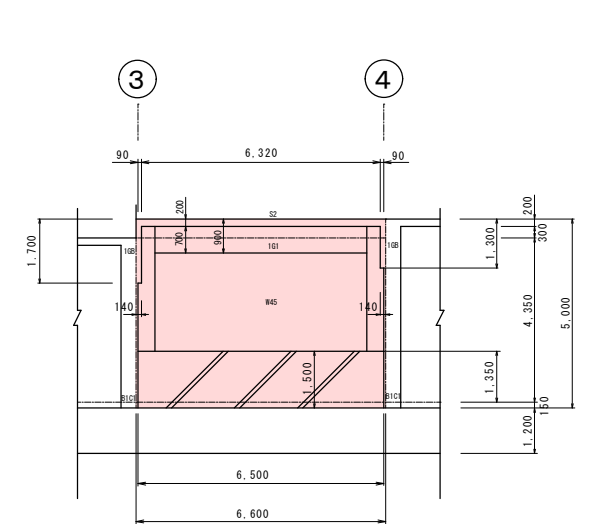
床面積（参考図）



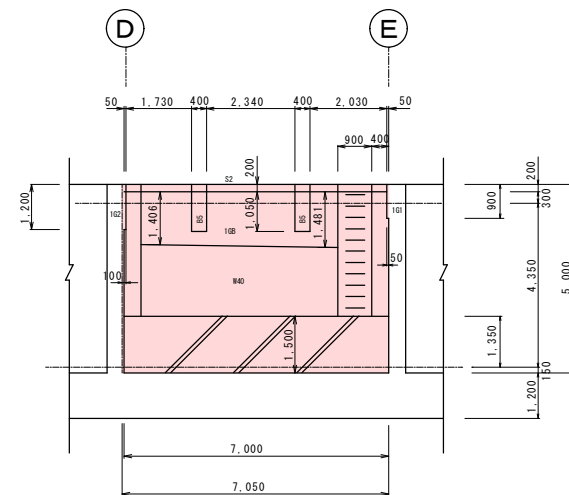
④ 通り展開図（参考図）



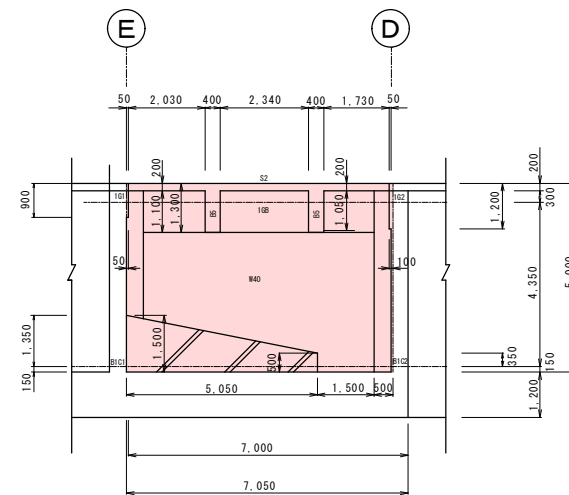
⑤ 通り展開図（参考図）



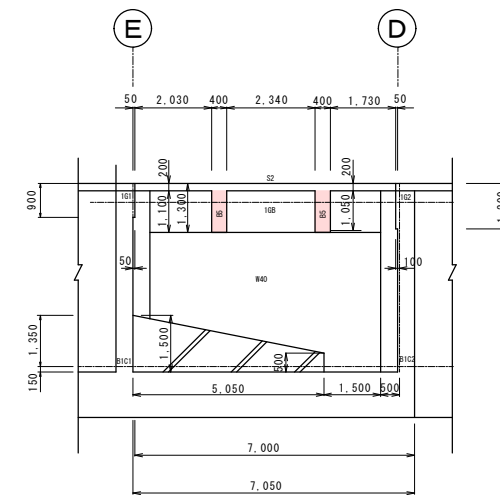
③ 通り展開図（参考図）



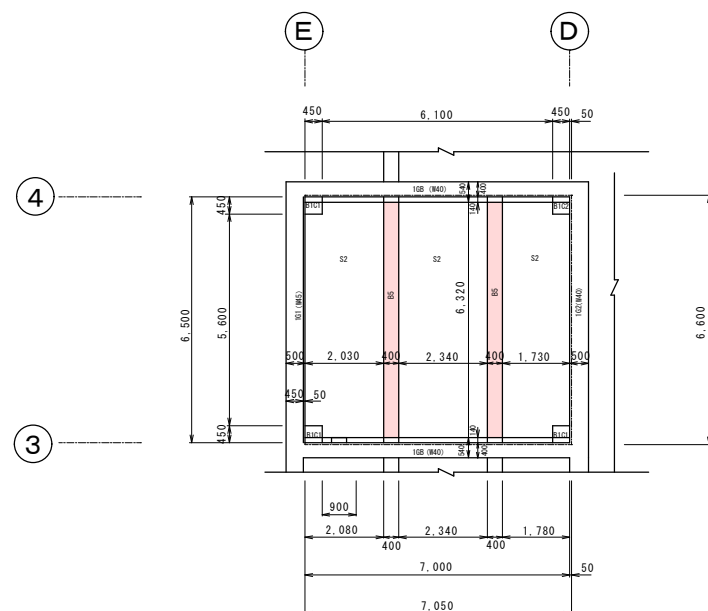
④ 通り展開図（参考図）



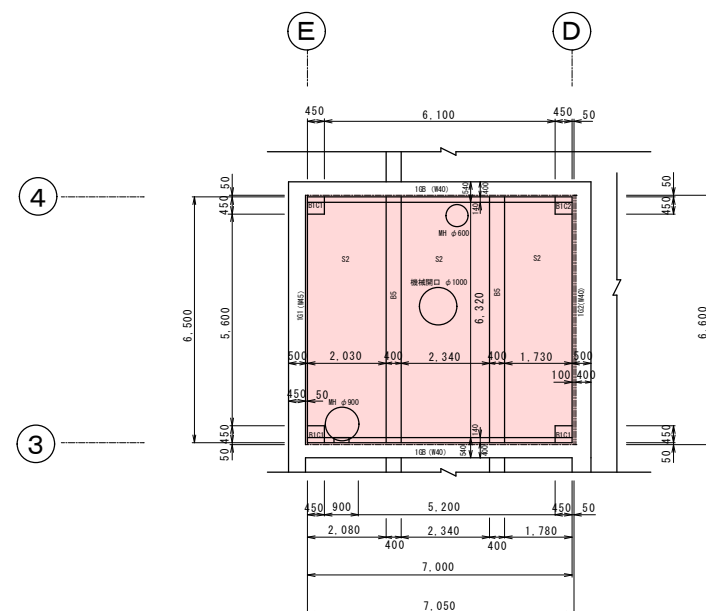
⑤ 小梁B5展開図（参考図）



⑥ 小梁B5展開図（参考図）



天井面積展開図（参考図）



宮古市上下水道部施設課	工 事 名		宮古浄化センターNo. 3 汚泥貯留槽修繕工事	
	図 種		面積詳細図（参考図）	
	縮 尺		S = 1 : 200	
	月日	令和8年7月	業内	（参考図-2） 1 1 / 1 1